

## 部活動地域連携・地域移行の検討状況について

### 1 国の動き

国では、「生徒にとって望ましい持続可能な部活動」と「学校の働き方改革の実現」に向けて、今後の部活動のあり方を検討していく必要があるとして、令和5年度から令和7年度までの3年間にかけて、休日の部活動から段階的に地域移行するよう提言がなされています。

### 2 本町の取組

町では、令和5年6月に学識経験者、学校代表、小中PTA代表、地域スポーツ団体代表者で組織する「三朝町部活動地域移行検討委員会」（以下、「検討委員会」という。）を設置し、国が示す公立中学校の部活動の段階的な地域移行の方向性を踏まえ、本町の中学生にとってふさわしいスポーツ・文化活動のあり方について検討しています。

### 3 検討経過

- ・令和4年5月 生徒、保護者、教員を対象にアンケート調査を実施
  - ・令和5年6月 検討委員会の設置
  - ・令和5～6年度 検討委員会による検討  
※令和6年12月現在、6回開催。
  - ・令和6年6月 町内スポーツ・文化芸術団体を対象にアンケート調査を実施
- ※概要は別記のとおり

### 4 検討方針

検討委員会では、町の現状を踏まえ段階的な検討を行うこととし、以下の方針で検討を進めることとしました。

- (1) 持続可能な取組とするため、他地域の取組を参考にしながら出来ることから取り組んでいく。
- (2) 第1段階として、以下の3点から検討を始める。

#### ① 休日の部活動改革

- ・「スポーツ・文化芸術活動を楽しむ休日」「中学生の地域活動参加機会の創出」の実現に向けた検討。
- ・月の1～2回の土曜日を部活動の完全休養日として設定し、この日は部活動とは別に、ボランティア活動や地域の協力による体験活動を行う。  
【例】ボランティア活動、文化・芸術・スポーツ体験、地域行事への参加
- ・休日の部活動のニーズ調査。

## ② スポーツ少年団の中学生加入

- ・地域移行の受皿候補団体としてスポーツ少年団各単位団を想定し、中学生の活動参加について検討する。
- ・中学生の活動参加（受入）が可能な単位団から、具体的な運営方法を検討する。

【参考：スポーツ少年団の対象年齢】

登録する年の4月1日現在満3歳以上から加入でき、年齢の上限はない。中学生や高校生、大人も登録可。

※『ガイドブック「スポーツ少年団とは」』（令和7年1月：発行/公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団）より抜粋

## ③ 部活動指導員と外部指導者の人材発掘にむけた制度設計

### 5 今後の予定

令和7年度	休日の部活動改革 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校との協議（休日部活動の在り方について整理）               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;月に1～2回、完全休養日を設けるか or 顧問の判断とするか</li> <li>&gt;中学校教諭、生徒、保護者の意見照会</li> </ul> </li> <li>・子ども地域活動参加促進事業（仮称）の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;テーマ「スポーツ・文化芸術活動を楽しむ土曜日」</li> <li>&gt;本事業の協力団体等を募集</li> <li>&gt;月に1回を目安に地域活動を実施（検証）</li> </ul> </li> </ul>
	スポーツ少年団の中学生加入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の受入意向照会→単位団</li> <li>・受入意向単位団を対象とした意見交換               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;単位団の要望事項等を聞取り</li> </ul> </li> <li>・中学校との協議               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;部活動自由参加制との整理</li> <li>&gt;指導体制や大会出場に関する事項の整理</li> </ul> </li> <li>・テスト事業の実施（部活動とスポ少の合同練習等）</li> </ul>
	部活動指導員と外部指導者の人材発掘にむけた制度設計 <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な人材発掘及び予算確保に努める。</li> </ul>
	鳥取県内及び中部圏内における意見交換及び協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動地域移行における総括的な協議。</li> </ul>
	三朝町部活動地域移行検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取り組みの検討及び事業の検証。</li> <li>・平日の地域移行を見据えた課題解決の検討。</li> <li>・受皿候補団体の判断基準、財政支援、町内人材バンク制度の検討</li> </ul>
令和8年度	休日の部活動改革 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～事業の継続、展開。</li> </ul>
	スポーツ少年団の中学生加入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～スポーツ少年団の中学生加入体制の運用開始（可能な団から）</li> </ul>
	部活動指導員と外部指導者の人材発掘にむけた制度設計 <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な人材発掘及び予算確保に努める。</li> </ul>
	鳥取県内及び中部圏内における意見交換及び協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動地域移行における総括的な協議。</li> </ul>
	三朝町部活動地域移行検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日の地域移行を見据えた課題解決の検討。</li> <li>・受皿候補団体の判断基準、財政支援、町内人材バンク制度の検討</li> </ul>
令和9年度～	平日の地域移行に関する方針設定

【別記：検討経過の概要】

1 実績

時期	内容	備考
R4.5	部活動地域移行に係るアンケート調査実施	対象：保護者、生徒、教員
R4.6	保護者向け説明会実施	アンケート結果、課題等
R5.1	検討状況について小中学校保護者へ報告	書面通知
R5.6	三朝町部活動地域移行検討委員会（以下「検討委員会」）を設置	委員9名
R5.6	令和5年度第1回検討委員会	【議題】 ①部活動地域移行にかかるこれまでの経過と現状について ②意見交換
R5.10	令和5年度第2回検討委員会	【議題】 ①鳥取県公立中学校における部活動の地域連携・地域移行推進計画について ②県担当課を交えた意見交換
R6.2	令和5年度第3回検討委員会	①県内市町村の検討状況について ②本町で想定される課題の洗い出しと整理について（ワークショップ）
R6.5	令和6年度第1回検討委員会	①本町における検討状況について ②スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査の実施について
R6.6	スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査実施	・対象：町内スポーツ・文化芸術関係団体 合計 71 団体（個人を含む） ・「休日における部活動の協力」を設問の前提に調査
R6.8	令和6年度第2回検討委員会	①スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査結果について ②令和7年度（以降）に向けての本町の取組（案）について
R6.12	令和6年度第3回検討委員会	①令和7年度の検討計画案について ②三朝町の取組案について

2 生徒、保護者、教員対象のアンケート結果抜粋（令和4年5月）

生徒	「現在所属している部活動は自分がやってみたい種目の活動か」との問いに対し、70%が「そのとおり」と回答。
	「休日の部活動を地域が担う場合の活動方針として望む方針は」との問いに対し、56%が「楽しんで行うことを目的とした方針」と回答。また、「技術指導」や「大会の好成績」を目的とした方針を望む回答は31%であった。

保護者	「休日の部活動を地域又はスポーツクラブが担うことについて」、 <u>75%</u> が「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答。
	「休日の部活動を地域が担う場合の活動方針として望む方針は」との問いに対し、 <u>35%</u> が「楽しんで行うことを目的とした方針」と回答。 また、「技術指導」や「大会の好成績」を目的とした方針を望む回答は <u>44%</u> であった。
	「指導者報酬や参加者の保険料等の受益者負担について」、 <u>67%</u> が「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答。
教員	「休日における部活動の地域移行について」、 <u>92%</u> が「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答。
	「休日の部活動が地域移行となった場合、あなたは部活動とどのように関わるか」との問いに対し、 <u>50%</u> が「できれば関わりたくない」と回答。 また、何らかの形で部活動への関わりを希望する回答も <u>50%</u> であった。

### 3 本町で想定される「課題」と「実現のための手法」の整理

(令和5年度第3回検討委員会)

	課題	実現のための手法・アイデア
学校現場	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日と休日で指導者が異なる場合の対応による業務増加。</li> <li>文化部の活動方針。</li> <li>休日における公式、練習試合の対応。</li> <li>指導者と顧問のコミュニケーション。</li> <li>部員数減少による活動の制限。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休日は段階的に教員の参加を減らす。</li> <li>月一回、土曜日に部活動とは別の文化・スポーツ活動の創出。</li> <li>合同部活動において、週替わりで各校担当者が対応。</li> </ul>
指導者(外部含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者の人材不足や確保。</li> <li>対応できる競技が限定的。</li> <li>指導者への謝金(財源確保、基準が不明)。</li> <li>活動時のリスク(保険)対策。</li> <li>勤務時間と指導時間との兼ね合い。</li> <li>指導者に求められる資質や資格。</li> <li>休日の指導に係る方針・指導理念の設定。</li> <li>時間、場所等の変更に係る学校との情報共有方法。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材バンク制度。  <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;例えばバイオリン美術館等、指導できる環境、指導者がいる団体から順次、協力を依頼。</li> </ul> </li> <li>謝金や保険・補償についての指針を設定。</li> </ul>
生徒・保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動資金のつくり方。 (町負担と受益者負担)</li> <li>施設利用料、指導者への指導料等の費用負担。</li> <li>活動場所でのスポ少、体協等との使用時間の調整。</li> <li>チーム競技の場合、他の町との合同練習をする時間、場所、指導者。</li> <li>合同部活動時の移動手段、会場。</li> <li>土日の移動手段(送迎バス等)。</li> <li>中体連の大会参加条件(クラブチームも参加できるか?)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のニーズ把握。  <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;生徒が、休日の部活動を学校でしたいと思っているか。</li> <li>&gt;目標が高い生徒はクラブチームに参加するケースもある。</li> </ul> </li> <li>→休日の部活動に対するニーズが少なければ、休日の部活動は行わないという選択肢もある。</li> </ul>

受血候補団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発掘、把握の手法。</li> <li>・選定方法（判断基準）。</li> <li>・休日の活動が部活動なのか否かの判断が曖昧（休日は部活動ではない？）</li> <li>・生徒・保護者のニーズと対応可能な受血団体との調整。</li> <li>・生徒の受入に係る経費負担。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化活動も含めて幅広く受血候補団体としての協力意向調査を実施</li> <li>・受血団体としての適性度の判断基準等の制度設計</li> <li>・土日は地域活動という観点で、生徒が地域で様々な活動を行う。</li> <li>・休日は、教員は関与せず、外部指導者が方針する。</li> <li>・受血団体に対する財政支援。</li> </ul>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 4 生徒、保護者、教員対象のアンケート結果抜粋（令和6年6月）

設問	回答の概要
<p>国の方針や本町の実情を踏まえ、中学生にとって望ましい休日の活動についてどのようにお考えですか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中学生と町内各団体が同意のもとに受け入れ」という回答が最も多かったが、「地域移行は実現できないと思う」という回答も少なくはない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行の協力（受血）団体となることについて、どのようにお考えですか</li> <li>・休日に協力（受血）ことができる内容（競技・頻度等）についてお聞かせください</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「前向きに検討したい」「条件によっては検討可能」という回答が合わせて13件。</li> <li>・受入が検討できるスポーツ種目 →野球、バドミントン、空手、陸上競技、剣道、水泳、ソフトテニス、体力づくり・ニュースポーツ</li> </ul>
<p>「条件によっては（協力の）検討可能」の、条件とはどのようなことを想定されていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スタッフの確保」「自分たちにとって無理にならない範囲」という意見が多数。</li> </ul>
<p>芸術・文化活動への協力、一緒に活動することについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に前向きな回答は少ないが「個人のボランティアとして」関心があるという回答もあった。</li> <li>・文化サークルは主に高齢者の団体が多く、中学生との世代の差や事故発生時の対応が困難といった不安により消極的な意見が多い印象。</li> </ul>
<p>部活動の地域移行について、どのような町の支援策があればよいとお考えですか</p>	<p>「会場使用料の減免」、「指導者・スタッフの待遇向上」が多い回答であった。</p>

## 子ども地域活動参加推進事業（仮称）について

### 1 目的・期待する効果

- ・ 小学校上学年から中学生を対象に、地域活動へ参加するきっかけを提供し、地域での活躍の場を創出する。
- ・ 多様な体験を通じて子どもたちが地域への関心を高め、将来的に地域の担い手として成長することを目指す。
- ・ 地域の団体や住民にとっても、子どもたちとともに活動することで交流が生まれ、地域の活性化や次世代育成に貢献する機会となる。

### 2 概要（予定）

#### （1）時期及び時間等

- ・ 毎月1回の土曜日または日曜日…全5回程度（年内を想定）
- ・ 原則午前9時から12時までの2～3時間程度

#### （2）対象者

- ・ 三朝小学校児童（4～6年生）、三朝中学校生徒
- ・ 各回定員…30名程度

#### （3）各回のテーマ例及び想定協力団体

- ・ ボランティア活動（みささ青空体験塾、地域協議会、みささ子ども・若者育成会）
- ・ スポーツ体験（体育協会競技部、スポーツ推進委員、町内外のスポーツ関係団体）
- ・ 文化・芸術体験（三朝バイオリン美術館、音楽鑑賞、ものづくり）
- ・ 地域行事への参加

※既存事業との合同開催等、持続可能な事業運営を目指す。

#### （4）年間行事イメージ（例）

区分	テーマ	活動内容
スポーツ	スポーツ教室	・ ペタンクで地域と交流 ・ 協力…町ペタンク協会、若宮集落
ボランティア	みささ青空体験塾	・ 魚つかみ体験のボランティア ・ 協力…里山地域研究会
地域行事	地域を学ぶ	・ 燻製づくり体験 ・ 協力…今泉集落、町子・若育成会
スポーツ ボランティア	町スポーツ・ レクリエーション祭	・ ブース運営ボランティア ・ 協力…体育協会、スポーツ推進委員会
芸術	バイオリン鑑賞会	・ バイオリンミニコンサート、体験 ・ 協力…三朝バイオリン美術館

#### （5）募集方法

連絡アプリ（クラスルーム）の活用等、既存のツールを用いて簡素化を図る。

### 3 事業の流れ（役割）

原則、社会教育課は講師団体との調整、募集準備を担当することとし、事業に係る準備及び運営は講師団体に依頼する。

- (1) みささ土曜楽校カリキュラムの企画→募集（社会教育課）
  - ・ 募集チラシ作成（なるべく定型的なもの、ICT を積極的に活用）
  - ・ 講師団体との調整
- (2) 参加者募集（小・中学校）
  - ・ 掲示板掲出やネットワークでの周知、募集
- (3) 事業実施（講師団体）
  - ・ なるべく講師団体主導で事業を進める。
  - ・ 活動内容の記録→社会教育課へ提出
- (4) 振り返り（社会教育課、講師団体、小・中学校）
  - ・ 事業検証

## スポーツ少年団の中学生加入について

### 1 目的

中学校部活動地域移行の一環として、中学生がスポーツ少年団に加入する仕組みを整備し、地域に根ざしたスポーツ環境を構築する。これにより、生徒が継続的にスポーツに取り組む機会を確保し、地域全体での青少年の健全育成を推進することを目的とする。

### 2 期待する効果

- ・競技レベルや個々のニーズに応じた活動が可能となり、部活動では実現しづらい柔軟な練習・指導を受けることができる。
- ・異年齢の仲間や地域の指導者と交流し、地域への愛着や社会性を育む機会となる。
- ・中学生の加入によってスポーツ少年団の活動が活発になり、地域全体のスポーツ振興につながる。

### 3 事業計画

#### (1) 概要

- ・三朝町スポーツ少年団11単位団に対し「スポーツ少年団活動の中学生受入可否」について照会。
  - ・「受入可能」または「協議に応じる」と回答した単位団を対象に、中学生の受入実現に向けた意見交換を実施。（受入に伴う条件及び要望事項の調整）
  - ・適宜、三朝中学校と本件について協議（情報共有、部活動自由参加制及び指導体制や大会出場に関する事項の整理等）
  - ・テスト事業（部活動とスポーツ少年団との合同練習等）を実施、検証。
  - ・スポ少単位団からの要望実現に向けた予算措置の検討。
- ⇒受入可能な単位団から、順次中学生のスポ少参加を実施していく。

#### (2) 事業スケジュール（予定）

STEP 1		三朝町スポーツ少年団11単位団に対し、中学生の受入意向を照会 → 照会結果取りまとめ
STEP 2		「 <u>受入可能</u> 」または「 <u>協議に応じる</u> 」と回答した単位団を対象に、中学生の受入実現に向けた意見交換。
STEP 3		三朝中学校との協議、調整。
STEP 4		実現可能な単位団からテスト事業を実施、検証。
STEP 5	10～12月	必要な予算措置の検討及び予算要求
STEP 6	令和8年度?	条件が整った単位団から中学生のスポ少参加を開始。

(3) 照会事項 (案)

問1	貴単位団の活動に、中学生の受け入れが可能ですか？ ①全学年受入可能 ②学年を限定して受入可能（ 年生） ③条件付きで受入可能（条件： ） ④現時点では判断できないが協議には応じることができる ⑤不可能（理由： ） →回答終了 ※以下、①～④回答者設問（④の場合は任意回答）
問2	どのような活動内容で中学生の参加が可能ですか？ ①小学生と一緒に指導や練習、大会参加への対応 ②中学生のみを対象とした指導や練習（小学生とは別メニューでの実施） ③小学生との交流を目的とした活動（合同練習、補助コーチとしての参加） ④スポーツ活動以外の地域貢献活動（イベント運営補助、地域行事への協力） ⑤その他（具体的に： ）
問3	どの曜日・頻度で参加が可能ですか？ ①全ての活動日に参加可能 ②指定の回数のみ参加可能（例：週 回まで） ③休日のみ参加可能（土・日・祝日） ④その他（具体的に： ）
問4	受け入れ可能人数の目安を教えてください。 ①制限なし ② 人まで
問5	現在の指導体制で対応可能ですか？ ①現体制で対応可能 ②指導者の増員が必要（ 人程度の増員） ③その他（具体的に： ）
問6	受け入れの際に考慮すべき点をご記入ください。（自由記載） 【例】活動方針の調整、施設の利用方法等
問7	受け入れにあたり、町スポーツ少年団本部から支給される「育成強化費（年額 10,000 円）」及び「指導者謝金（年額 50,000 円）」についてご意見をお聞かせください。 ①従来 of 金額で対応可能 ②増額を希望する（具体的な増額内容： ） ③その他（具体的に： ）
問8	受け入れにあたり、必要な運営支援があればお聞かせください。（自由記載）【例】指導者派遣、施設の利用優遇、費用補助 等
問9	その他本件に関するご意見、ご要望があればご記入ください。（自由記載）